

9月24日～30日は、結核予防週間です！



◆日本の状況

国内で2021年(令和3年)に結核と診断を受けた患者は11,519人で、人口10万人あたりの新規患者数を示す罹患率は9.2人と、統計が残る1951年以来初めて10人を下回り、世界保健機関(WHO)の分類で「**低蔓延国**」となりました。しかし、今でも、1日に32人の新しい患者が発生し、5人が命を落としている、「**日本の重大な感染症**」です。

◆高齢者の結核

結核を発病した人の約4割が**80歳以上の高齢者**です。

◆外国生まれの患者の結核

結核を発病した人の約1割が外国生まれの患者です。20歳～29歳では**7割**が外国生まれです。

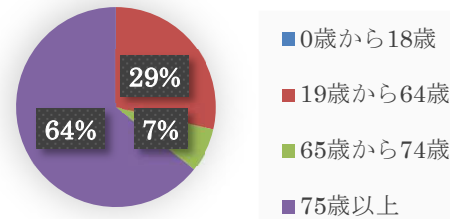
◆龍野健康福祉事務所管内の状況◆

令和4年

2022年(令和4年)の結核届出者数は、**14人**でした。

| | | |
|------|-----------------|----|
| <内訳> | 肺結核 | 5人 |
| | その他の結核(結核性胸膜炎等) | 2人 |
| | 潜在性結核感染症 | 7人 |

結核届出者数の年齢構成



令和5年 最新情報

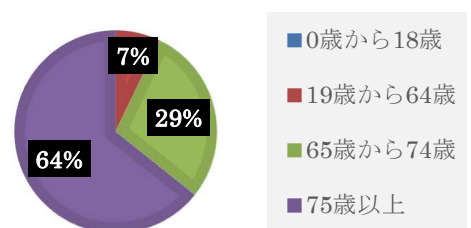
2023年(令和5年)の**上半期(1月～6月)**の

結核届出者数は、**14人**でした。

| | | |
|------|-----------------|----|
| <内訳> | 肺結核 | 8人 |
| | その他の結核(結核性胸膜炎等) | 2人 |
| | 潜在性結核感染症 | 4人 |

令和4年1年間の届出数と同じ

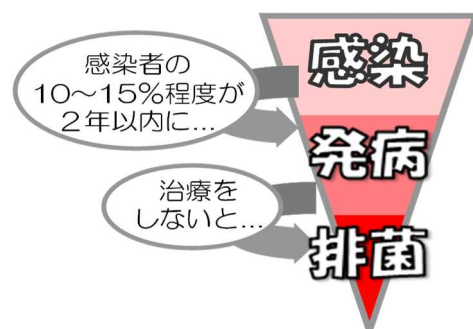
結核届出者数の年齢構成



早期発見、早期治療が大切！！

◆感染と発病の違い

| | |
|----|------------------|
| 感染 | 免疫力により菌が抑えこまれている |
| 発病 | 菌が増えて病変が現れる |
| 排菌 | 菌が体外に排出される |



❖結核の症状

発熱 咳・痰 倦怠感

食欲不振 体重減少 息苦しさ

初期の結核は風邪と似ていますが、高齢者は呼吸器症状がみられず、何となく元気がない、などのこともあります。

❖リスク要因

糖尿病 喫煙習慣 胃潰瘍・胃の手術をした人、免疫抑制剤使用

じん肺 HIV感染 人工透析

免疫力が強ければ、ある程度は菌を封じ込められますが、合併症や喫煙などによって結核菌の好む環境をつくってしまうと、おさえられていた菌が増殖し発病してしまいます。

**★いつもと違う様子が見られたら、「もしかして結核かも？」
早めに受診を勧めてください。**



**★毎年行っている結核に係る定期健康診断(感染症法第53条の2)
を確実に実施してください。**

もしも、患者さんが発生したら・・・!

◆保健所が積極的疫学調査を行います(感染症法第15条)。

◆接触者健診は健康福祉事務所(保健所)と一緒にすすめていきます。

- ❖感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、感染症法)に基づいています。
- ❖患者さんと接触した全ての人に感染の心配があるわけではありません。
患者さんの症状と対象者の接触状況を総合的に判断し、感染の可能性が高い濃厚接触者の集団から順に健診を行います。

【接触者とは】(例)

- 排菌している患者さんと換気の悪い場所、近距離、長時間の接触があった人(濃厚接触者)
- 免疫力や抵抗力の低い人(ハイリスク接触者)

❖医療機関・高齢者施設での濃厚接触者(例)

【医療・看護行為】

- ・気管支鏡検査
- ・痰の吸引
- ・挿管

【看護・介護行為】

- ・口腔ケア
- ・食事介助

【ハイリスク者】

- ・同室者
- ・付き添い者

【その他の介護行為】

- ・リハビリ
- ・送迎車運転手

～効果的に健診を行うために～

健診範囲や優先順位の検討のために、接触者名簿の提出をお願いします。



※図2